

学校教育目標：◎学びつづける子 ○みとめ合う子 ○たくましい子

学べる学級・学べる学年・学べる学校をつくり 学べる子供を育てる

楽しく学べる

安心して学べる

あらゆる経験から学べる

ここには、各学年・学級・部会などの経営方針・具体的な取組が配置されます。
教育活動を計画・実施するにあたっては、以下の4点を念頭に置くこととします。

1. ここでいう「学び」とは、教科学習やその成績、狭い意味の「学力」のみを指すのではなく、学校生活のあらゆる経験から得る「学び」を指します。
2. 「学べる」とは、「1」に示した内容が、単純にうまくできるようになるという「結果」のみを指すのではなく、それを目指し、努力する「過程」も含めて、可能な状態であるということを示します。
3. 子供、学級や学年、学校組織、教員自身の「今」「ここ」を起点に考えます。
4. 「効果」と同時に「効率」を忘れずに考え、働き方の改善も図ります。

【心身の健康】

心の健康

- ・心が通い合う授業、心が通い合う学校生活の推進
- ・学校と家庭の連携による、心の把握とケア
- ・問題を解決する経験の蓄積による、前向きで強い心の育成

体の健康

- ・学校と家庭との連携による、基本的な生活習慣の確立
- ・運動・体験活動の充実による体力・運動能力の向上
- ・給食・各教科の指導による食（文化）への興味・関心の強化

【安全と安心】

生活の安全と安心

- ・ルールとマナーを主体的に考え行動する児童の育成
- ・地域や行政と連携した施設・設備・周辺環境の整備

学びの安全と安心

- ・ICT・情報機器の計画的な整備、教材教具の工夫
- ・「教育環境」としての教職員の意識の維持・向上
- ・違いを受け入れ、互いの成長を願う関係性の構築

【成長】

学び手としての成長（個人）

- ・自己を見つめ、適切な目標設定ができる能力の育成
- ・成長のプロセスに目を向け、工夫改善できる児童の育成
- ・獲得した「学び」の活用を促進する働きかけや場の設定

集団としての成長（学級・学年・学校）

- ・現状を共有し、共通の目標をもつ集団の育成
- ・主体的に問題解決・改善に関わろうとする態度の育成
- ・集団で取り組む学習、行事の充実、経験の蓄積

教職員の働き方：○サービスの厳正 ○ワークライフバランスの向上 ○指導力向上